

授業科目 公的扶助論Ⅰ

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	社会
星 野 恵美子		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 国民の生活と健康を最終的に保障する公的扶助について、体系的に把握し、国の社会保障制度の中でその果たす役割を理解する。日本や諸外国における公的扶助制度について体系的に把握し、全体像について理解する。 欧米及び日本の公的扶助についてその理念及び制度の歴史的展開について理解を深める。 その中心をなす生活保護制度の具体的仕組みの理論と実際について理解を深め、併せて対象者の人権に即した権利性の確保と義務履行の在り方について考える。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 公的扶助の概念と現代の貧困・低所得問題について理解する 2. 英国と日本を中心に公的扶助制度の歴史的推移を学び、貧困の社会的要因について理解を深め、併せて現在の生活保護に至るまでの形成過程を明らかにする。 3. 生活保護制度の原理・原則と運用について理解する。 4. 生活保護の運営実施体制と国・地方公共団体における費用負担について学ぶ					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	公的扶助の概念とその意義について学ぶ			1	講義
2	現代の貧困・低所得問題とその社会情勢と福祉ニーズを理解する			1, 2	講義
3	公的扶助の歴史と考え方 諸外国における理念と歴史的展開(1)			1, 2	講義
4	公的扶助の歴史と考え方 諸外国における理念と歴史的展開(2)			1, 2	講義
5	公的扶助の歴史と考え方 日本における理念と歴史的展開			1, 2	講義
6	現社会福祉基礎構造改革とその後の動き、現代社会における意義と役割について学ぶ			1, 2	講義
7	生活保護制度の仕組みを理解する			1, 3	講義
8	生活保護制度の目的及び基本原理・原則を理解する。			1, 3	講義
9	保護の種類と内容及び方法について知る。			1, 3	講義
10	保護施設の概要、被保険者の権利及び義務、不服申立て制度について学ぶ			1, 3	講義
11	生活保護の財政、財源について学ぶ			3, 4	講義
12	生活保護基準の考え方と最低生活保障水準の実際を知る(1)			3	講義
13	生活保護基準の考え方と最低生活保障水準の実際を知る(2)			3	講義
14	生活保護基準の考え方と最低生活保障水準の実際を知る(3)			3, 4	講義
15	まとめ			1234	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		「公的扶助論」低所得者に対する支援と生活保護制度	福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2,310円・最新版
参考書		「生活保護手帳」	厚生労働省保護課	中央法規	2,500円・最新版
その他の資料		「国民の福祉の動向・厚生指標」	厚生統計協会	厚生統計協会	2,100円・最新版
【評価方法】		【履修上の留意点】			
レポート、試験、小テスト、出席状況 授業態度を総合的に評価する		※ カリキュラムの編成上選択科目となっているが、社会福祉必ず履修すること。			